

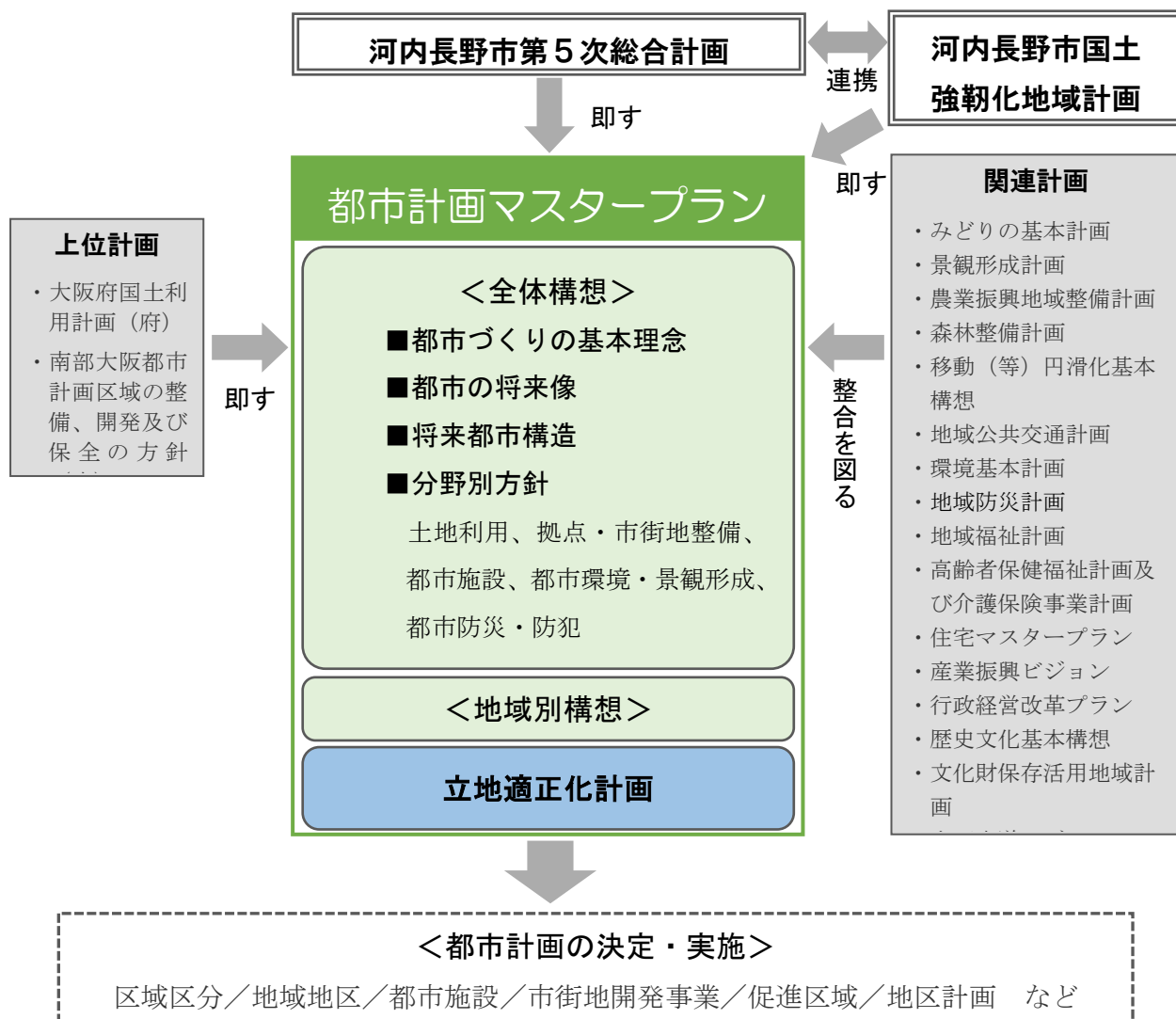
1. 全体構想案の概要について

1 都市計画マスタープランの構成

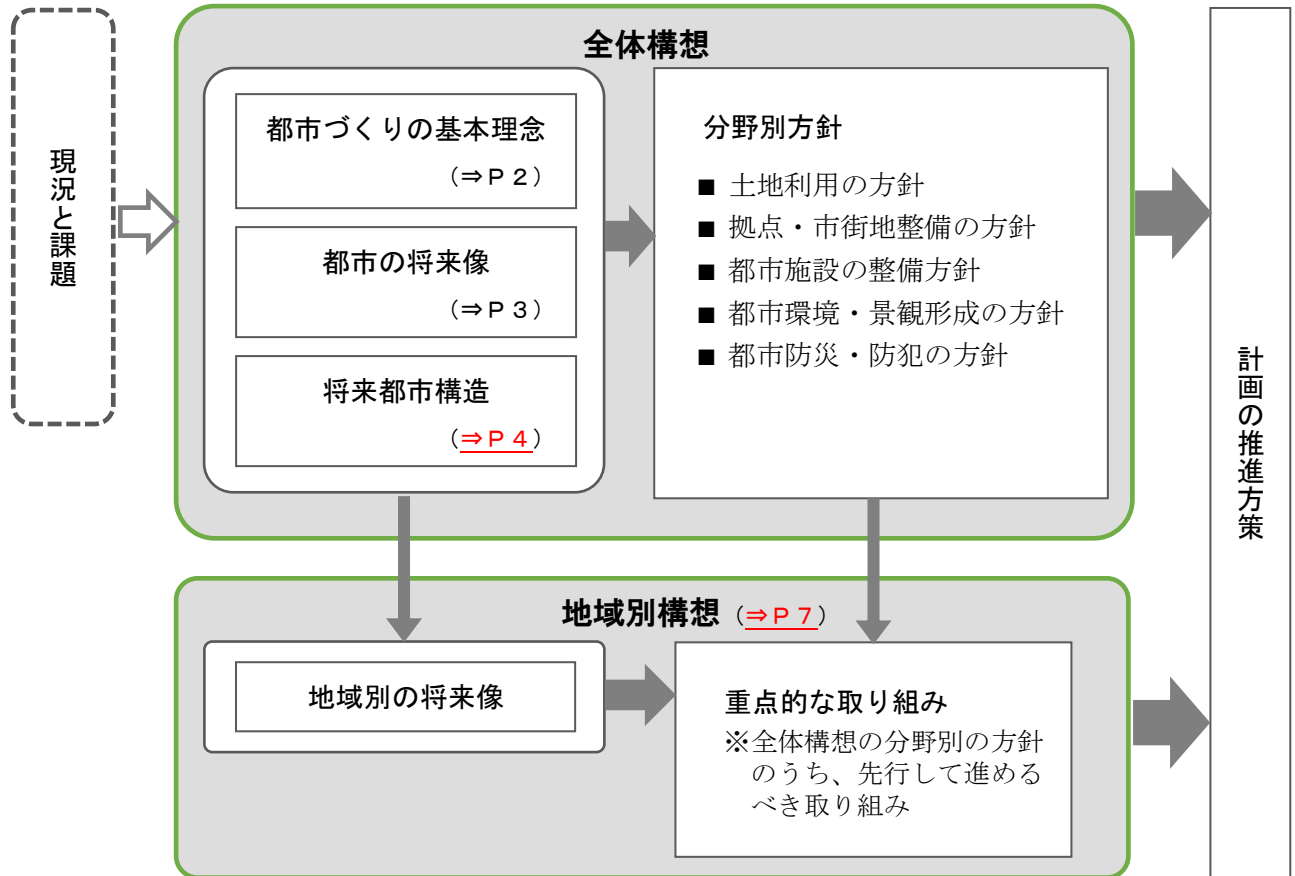
[都市計画マスタープランの役割]

都市計画マスタープランとは、都市計画法第18条の2に規定された「市町村の都市計画に関する基本的な方針」をいい、都市計画の土地利用、施設整備・開発事業などの基本となるものです。長期的な視点に立った都市の将来像やその実現に向けた方針を明らかにするもので、都市づくりを進めていくための指針となるものです。都市計画マスタープランで示す将来像は、広く市民や事業者などに共有され、都市づくりの方針に基づき、市民・事業者・行政などのそれぞれが互いの役割を持って実現していくための羅針盤となります。

[都市計画マスタープランの位置づけ]



[都市計画マスタープランの構成]



[SDGsの視点について]



河内長野市では、平成 27（2015）年に国連サミットにおいて採択された SDGs（Sustainable Development Goals-持続可能な開発目標）「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現をめざし、経済、社会、環境をめぐる幅広い分野の課題に対して総合的に取り組むこととしています。

本計画は、SDGs の 17 の目標のうち、次の目標の達成に向けた取り組みを推進するものです。



目標 8【働きがいも経済成長も】
包括的かつ持続可能な経済成長、及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と適切な雇を促進する



目標 13【気候変動に具体的な対策を】
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標 11【住み続けられるまちづくりを】
包括的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標 15【陸の豊かさも守ろう】
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する

2 都市づくりの基本理念

本市の都市づくりを進めていくうえで、今後普遍的に変わらない「都市づくりの基本的な考え方」として、次の3つの理念を掲げます。

理念
1

魅力（地域資源）を活かした都市づくり

恵まれた自然、受け継がれる歴史文化、地域に根付いた産業など、河内長野市の特徴や持っている魅力を活かした都市づくりを進めます。

- 自然（緑）の豊かさが際立つ都市
- 近くて深い自然と都市的な利便性・ライフスタイルが共存する都市
- 中世に花開いた多くの歴史文化が薫る都市
- 交通の要所として産業が元気な都市

理念
2

安心して暮らせる都市づくり

自然災害や都市災害に強く、事故や犯罪の少ない、日々の暮らしが安全で安心な都市づくりを進めます。

- 災害に十分に備えた心強い都市
- 事故や犯罪が少ない安全・安心な都市

理念
3

持続発展できる都市づくり

河内長野市に住む人、働く人、訪れる人がまちづくりに参加することができ、一人ひとりが生き生きと心豊かに生活できる都市づくりを進めます。

- 人口が減少しても心豊かに暮らせる都市
- 市民参加、協働により、みんなでまちづくりができる都市

3

都市の将来像

「都市づくりの基本理念」のもと、河内長野市が目指す目標としての「都市の将来像」とそれを支える7つの柱を次のとおり設定します。

《都市の将来像》

自然・歴史文化が暮らしを彩り、
多様な個性ある地域がつながりあう都市

[都市の将来像を支える7つの柱]

自然 豊かな自然に囲まれた都市的生活が可能な都市

資源 継承し続ける伝統・歴史文化や地域資源などが誇れる都市

産業 力強い産業が創造・発展する都市

防災 防災・防犯力が高い都市

交通 南河内の交通拠点として市内外がネットワーク化され移動が便利な都市

拠点 まとまりある生活圏（拠点）が互いに連携しあう都市

協働 市民・事業者・来訪者の活動がまちづくりのエンジンとなる都市

4

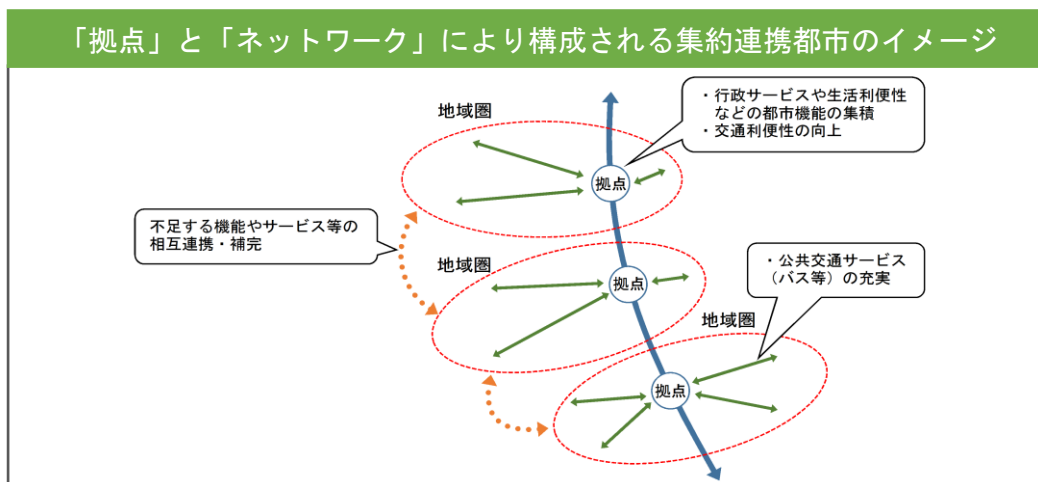
将来都市構造

「都市づくりの基本理念」を踏まえた「都市の将来像」の具体的な形や規模、配置や仕組みを示す将来の都市構造として、次のとおり示します。

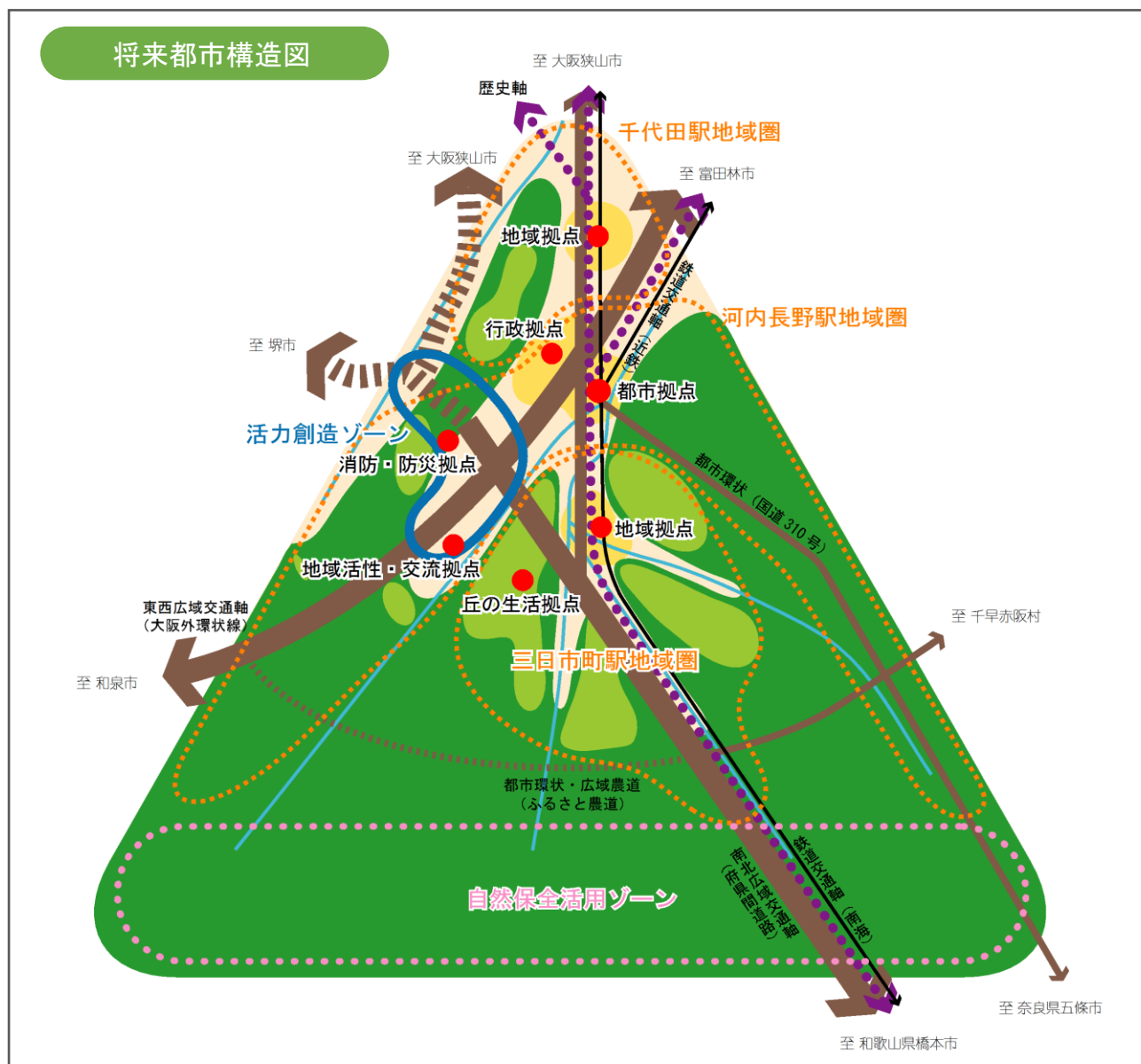
集約連携都市（ネットワーク型コンパクトシティ）

市内を南北に鉄道が貫き、5つの谷や丘陵部を切り開いた住宅地が広範囲に広がる本市の特徴を踏まえ、「拠点」と「ネットワーク」により構成する集約連携都市（ネットワーク型コンパクトシティ）を目指します。

- 主要3駅周辺を「都市拠点」（河内長野駅）及び「地域拠点」（千代田駅、三日市町駅）と位置づけます。行政サービスや生活利便施設などの都市機能を集積し、歩いて暮らせるまちづくりを進めます。
- 古くからの歴史や自然に恵まれた5つの谷の谷筋や宿場町、丘陵部の開発団地、農林業や観光・レクリエーションの場など、多様な個性ある地域に磨きをかけます。
- 「都市拠点」「地域拠点」を核とし、公共交通ネットワークでつながるまとまりを「地域圏」と設定します。地域圏内（開発団地・既存集落）の住民が将来にわたって拠点の都市機能を利用できるように、公共交通サービスを維持・発展させます。それぞれの地域圏で不足する機能やサービスなどは、地域圏同士で相互に連携しながら確保・維持します。
- 「三日市町駅地域圏」の中で、南花台は以南に広がる開発団地の拠点として「丘の生活拠点」と位置づけます。また、開発団地や既存集落などには、必要に応じて地域の実情に即した「小さな拠点」を設置し、日常生活サービスの補助や福祉・コミュニティの拠点としての役割を担います。
- 居住地域から離れたところに産業集積を図る「活力創造ゾーン」を設定し、企業誘致、雇用の創出による人口減少の抑制を図ります。
- 将来の都市構造は、地域の実情に合わせた、地域主体のきめ細かなまちづくりにより実現します。



「拠点」と市民生活が営まれるそれぞれの生活圏を含む「地域圏」、「地域圏同士」「市外との広域連携」など、道路や公共交通などの交通基盤、人的資源や地域のつながりを含めた、人、モノ、情報の交流が行われるネットワークを形成し、それぞれが有機的に連携・補完することで、質の高い暮らしを創出します。

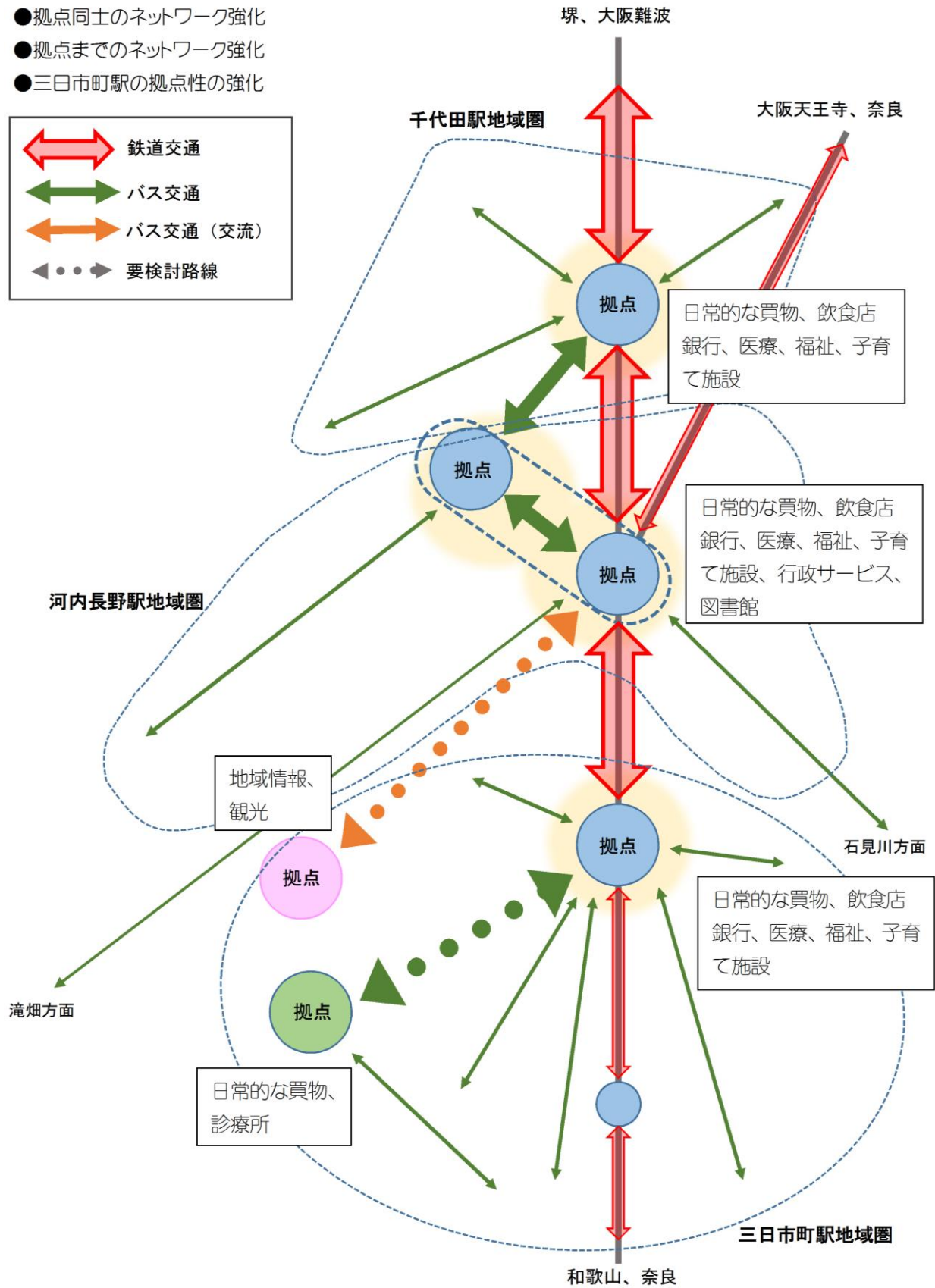
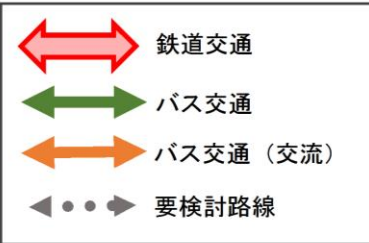


- | | | |
|----------|---------|------------|
| 地域圏 | 鉄道交通軸 | 活力創造ゾーン |
| 拠点 | 広域都市交通軸 | 歩いて暮らせるゾーン |
| 自然地、緑地 | 構想軸 | 自然保全活用ゾーン |
| 丘陵地の新市街地 | 歴史軸 | |
| 旧市街地 | | |

※上記の将来都市構造図は、第5次総合計画に示す都市空間概念図（P5）の「まち」「里」「森」を、5つの谷や旧市街地、丘陵地の新市街地が入り組んだ本市の特徴的な地勢になぞり示しています。

集約（コンパクト）と公共交通ネットワーク

- 拠点同士のネットワーク強化
- 拠点までのネットワーク強化
- 三日市町駅の拠点性の強化



2. 地域別構想の策定について

1 地域別構想の考え方

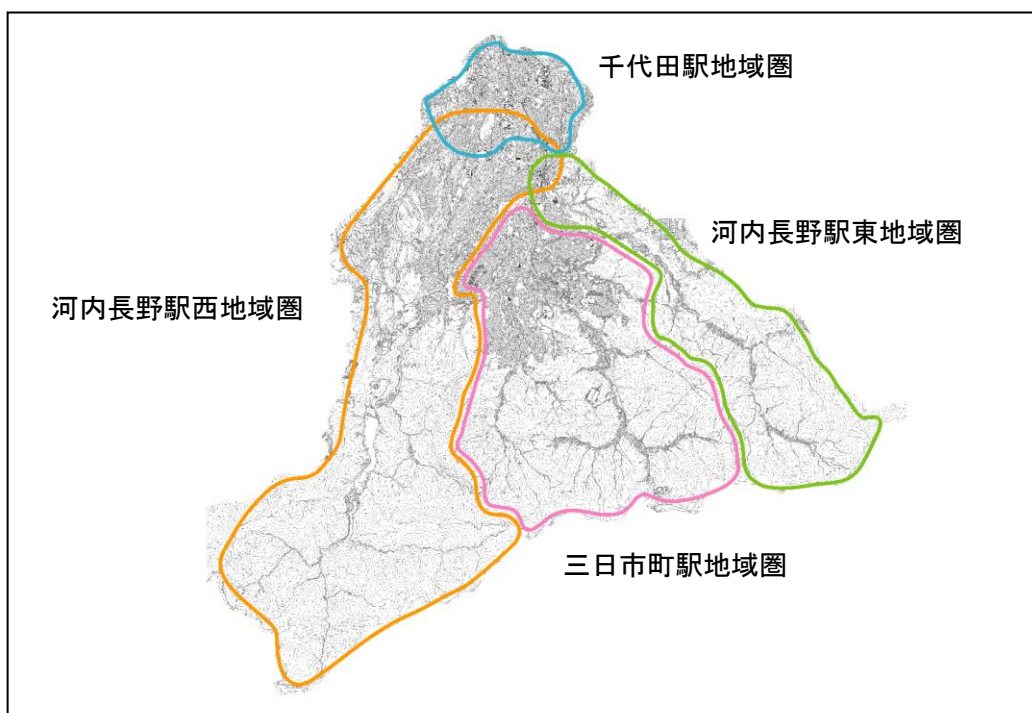
地域別構想は、前章までの全体構想に示す方針に基づき、「集約連携都市（ネットワーク型コンパクトシティ）」の実現に向け、先行して進めるべき重点的取り組みを地域圏ごとに示します。

地域圏は、コンパクトシティの拠点である主要3駅周辺の「都市拠点」（河内長野駅周辺）「地域拠点」（千代田駅周辺、三日市町駅周辺）のいずれかを含み、その拠点から公共交通ネットワークで結ばれた鉄道駅勢圏とします。先行して進めるべき重点的取り組みは、「都市の将来像を支える7つの柱（自然、資源、産業、防災、交通、拠点、協働）」が多角的に実現でき、実現効果の高いものとし、積極的に推進していきます。これらの取り組みについては、推進計画を具体的に示すとともに、その進捗工程を管理していきます。

2 地域の設定

地域は、主要3駅発のバス路線でまとまる鉄道駅勢圏とし、重複する部分もあります。また、河内長野駅地域圏は、河内長野駅を含む西側と東側に2分割し、合計4地域を設定します。

また、各地域圏には、都市拠点、地域拠点から離れた谷沿いに、長い歴史を持ち、豊かな自然や文化財などの地域資源を備えた集落が存在しています。

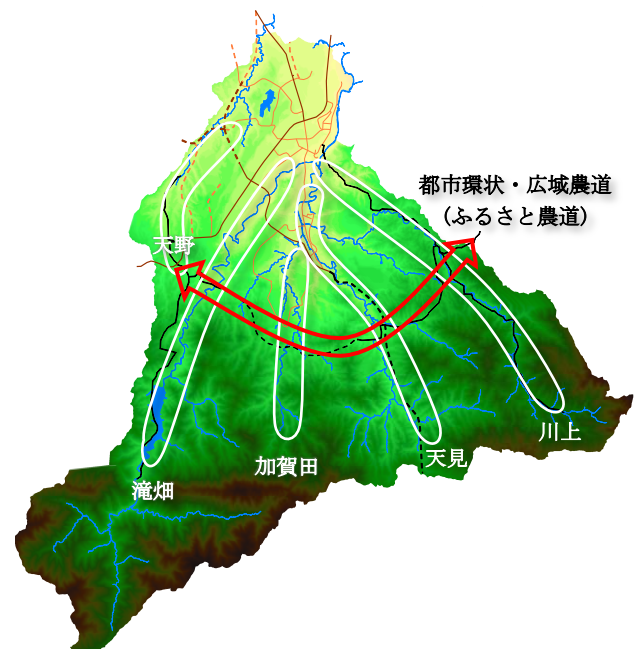


～5つの谷について～

本市の奥深い河川渓谷に位置した旧村圏と
かさなる「5つの谷」は、それぞれが独自に豊
かな資源や生きた文化財を有する自立した地
域です。

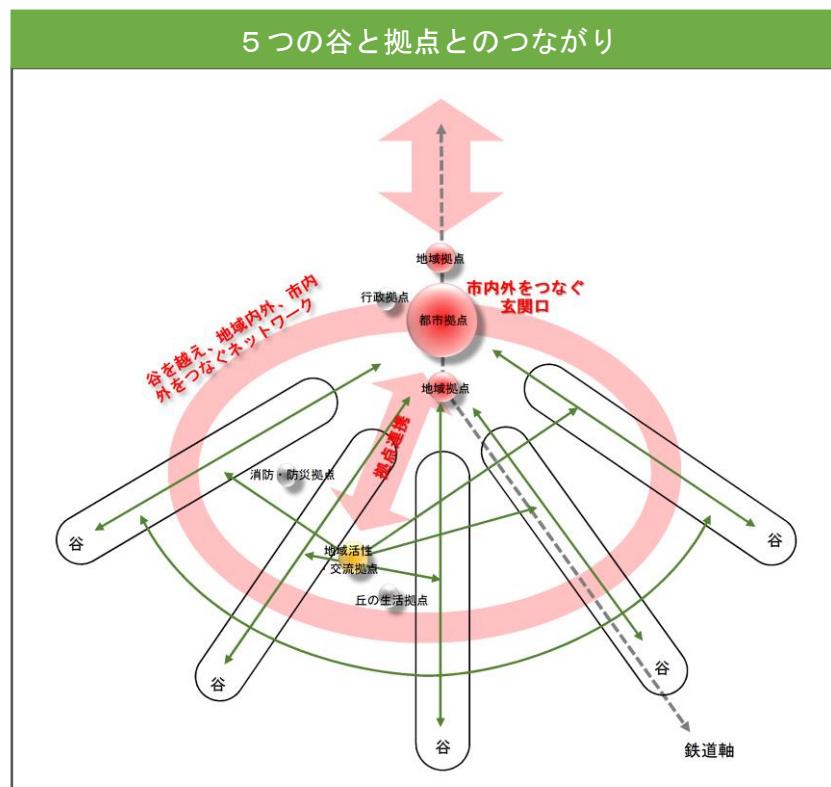
現在、この5つの谷を接続する都市環状・広
域農道（ふるさと農道）の整備を推進していま
すが、これの開通によって、今後5つの谷はこ
れまではなかった緊密な連携が可能になりま
す。

本市では谷ごとの大切な宝、地域資源を有効
活用しながら、更に都市環状・広域農道の開通
を契機に、谷筋間の交流を活性化し、5つの
谷・農山村集落の維持や活性化を目指します。

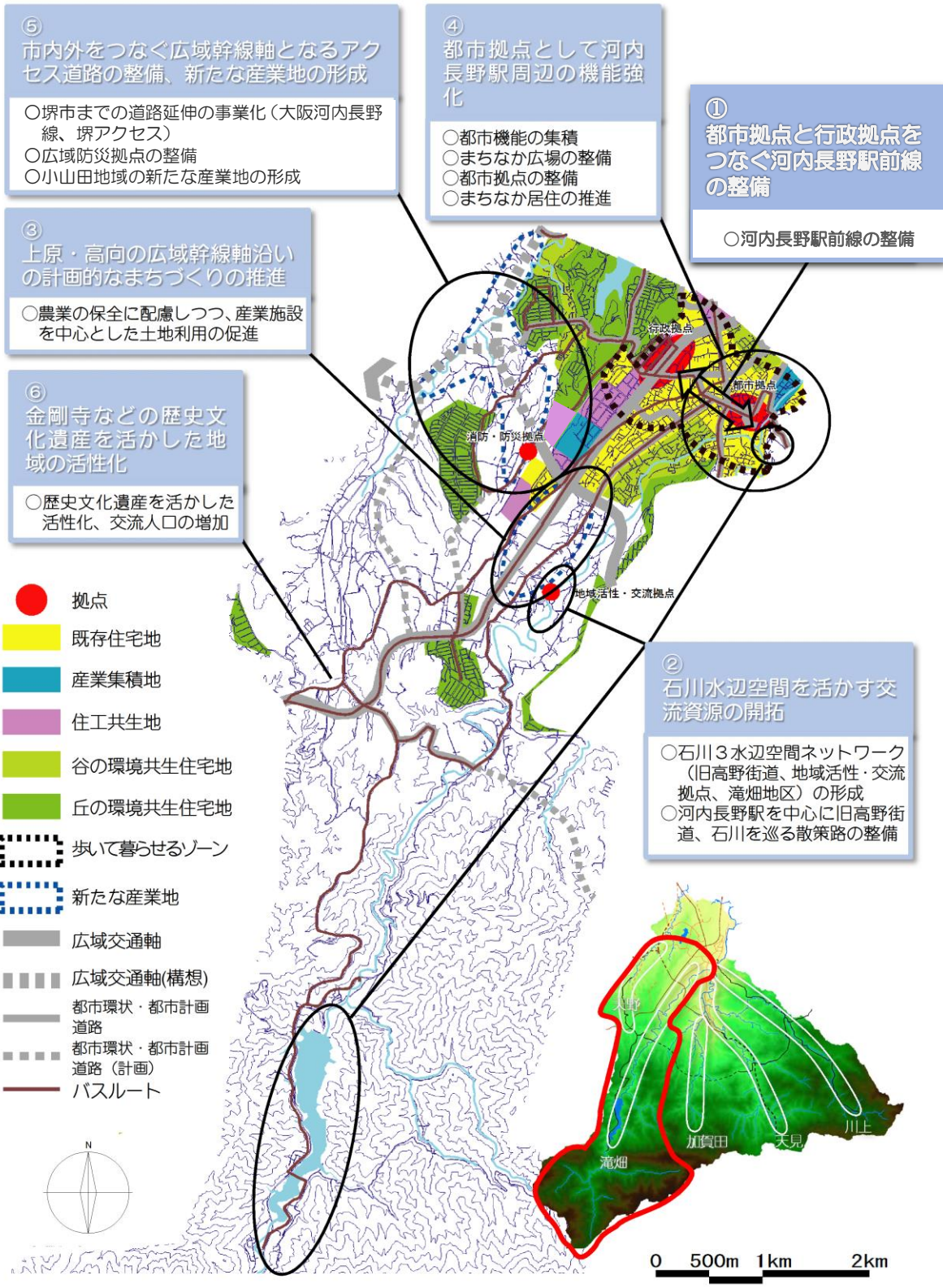


[谷のまちづくりの方向性]

- 歴史文化遺産を活かしたネットワークの形成
- 空家などの地域資源の活用
- 農山村を活かした6次産業の育成
- ツーリズムによる交流促進



方針図（例：河内長野駅西地域圏）



3. 今後のスケジュールについて

令和4年	12月	パブリックコメント
令和5年	1月	河内長野市都市計画審議会に諮問
	2月	河内長野市都市計画マスタープラン改訂